

福岡市のロボット名所巡り!

福岡県福岡市は、2003年11月に「ロボット開発・実証実験特区」に認定される(2006年1月に特区の規制緩和は全国展開された)など、ロボットに関して熱心な地域として知られている。その中心の一つであるロボスクエアが、2007年7月に場所を移してリニューアルオープンした。また2007年になってから福岡市内でロボットショップが開店するなど、新しい動きが出てきている。そんな福岡市の「ロボットを見られる場所」を紹介する。

おおばやし けんじ
大林 憲司

(((リニューアルしたロボスクエア)))

博多リバレインから 百道浜のTNC放送会館へ

ロボスクエアは、福岡市が2002年7月20日に福岡市博多区にある商業施設・博多リバレインの地下2階に開館した施設だ(ただし、福岡市直接の運営ではなくロボスクエア運営委員会を作ってその運営となっている)。地下鉄の駅からすぐという立地条件もあり、福岡市におけるロボットを紹介する施設として親しまれてきた。福岡市にロボットを普及するに当たってこのロボスクエアが果たしてきた役割は大きかった。

しかし、JR博多駅の再編にともなって、博多リバレインの地下にデパートが移転することが決まり、ロボスクエアも移転することになった。

ロボスクエアは福岡市早良区百道浜にあるTNC放送会館2階に移転先を決め、2007年7月20日にリニューアルオープンした。リニューアル・オープニング・セレモニーには、HONDAのASIMOやテムザックのKIYOMORIが登場し、セレモニーを盛り上げていた。

TNC放送会館のある百道浜は埋め立てで作られた造成地で、福岡市の施設や企業



ロボスクエアの入居しているTNC放送会館

のビルなどが立ち並び、未来都市を思わせるような所だ。福岡市の中心部からは遠くなったが、ある意味でロボスクエアは最も相応しい場所に移転したのかもしれない。

またロボスクエアの入っているTNC放送会館の近くには、福岡タワー、シーサイドももち海浜公園、福岡市博物館、福岡市総合図書館などがあり(少し離れた地行浜には福岡ヤフドームがある)、この地域は福岡市における観光スポットの一つであると言っている。その観光施設の一つとして、ロボスクエアは期待されているところもあったようだ。



博多リバレイン時代のロボスクエア外観(上)と現在のロボスクエア外観(下)。正面にはテムザックのロボットが展示してある

展示されているロボットも増加

新しいロボスクエアは面積が元のロボスクエアの約1.4倍に広がり、ロボットも



リニューアルオープニング・セレモニーにはASIMOが登場

増えて41種112体のロボットが置かれている(2007年10月現在)。入り口から入ってすぐに目立つのは、二足歩行ロボットの置かれた円形の展示スペースだ。上部にはカメラもついており、上からの様子を撮影してモニターに映し出すことができる。

置かれているロボットは、ほとんどがロボスクエア所有の二足歩行ロボットだが、中にはロボスクエアの要請でヴィストンが展示しているVisiONシリーズのロボットも置かれている。

RoboCupを制したVisiONを間近で見られる機会はそうあるものではない。これだけでもロボスクエアに来る価値があるだろう。

以前のロボスクエアは数多くのAIBOが見られる場所として知られていたが、これはロボスクエアが新しくなってからも変わらない。しかもロボスクエアではAIBOを展示しているだけでなく、実際に触れ合うこともできる。ソニーがAIBOの製造を中止した今となっては、これだけのAIBOが集まっているロボスクエアは「AIBO最